

鳥海イヌワシみらい館通信

Vol,26 2018年 春号



鳥海イヌワシみらい館
マスコットキャラクター
「ワッシーくん」

バードウォッチングへの誘い②⑥「松森胤保が描いた江戸～幕末の庄内」
突撃！鳥海イヌワシみらい館⑧ 白壁洋子氏
酒田市環境衛生課 環境保全係より
環境省自然保護官着任のご挨拶
蜂蜜の森から④「愛しハチクマ」

「トウホクサンショウウオ」酒田市 撮影：長船裕紀

まつもり たねやす

松森胤保が描いた江戸～明治の庄内

江戸時代末期の庄内に、松森胤保という侍がいました。胤保は庄内藩の支藩、松山藩に付家老として勤務しながら、時には侍として、政治家として、そして博物学者として活躍した人物です。胤保が晩年に動植物を描き纏めた59冊にも上る「両羽博物図譜(山形県指定文化財)」は、分類方法と生態を記した凡例などほかの図譜には見られない優れたものです。100年以上も昔に描かれた図譜から、当時の自然と人々の生活を思い起こしてみるのも面白いかもしれません。(画像提供:酒田市光丘文庫、松森写真館)※酒田市立図書館のホームページから図譜全巻を閲覧できます。



発明した「織り機」を手にする
晩年の松森胤保(1825-1892)

◆秀逸な鳥類図譜



川ソビ...「カワセミ」

現代では「飛ぶ宝石」などと呼ばれ、バードウォッチャー憧れの鳥ですが、胤保は両羽博物図譜に「大悪鳥」と記しています。理由は、「庭の池のコイを捕まえる」から。車がなかった当時、愛玩動物として流行したコイは稚魚を水ごと桶に入れて運搬していました。何日もかけて産地から苦労して運んだものを、いとも簡単にくわえて持ち去ってしまうことから嫌っていたようです。しかし、庭でもこうした鳥が見られたということは、当時の自然の豊かさを物語っています。

◆日本のレオナルド・ダ・ビンチ



鳥船(飛行機)

地動儀

両羽博物図譜とは別の著作ですが、魅力的な発明品の数々も松森胤保のすごいところですよ。

◆図譜に見る江戸～明治の庄内



「赤トンボ」

両羽飛虫図譜蜻蛉部にはミヤマアカネ、コノシメトンボ、マユタテアカネ、マイコアカネ、ナツアカネ、アキアカネが雌雄ペアで描かれています。当時は普通にいたトンボたちですが、農地改良によって乾田化したことで、アキアカネを除く乾燥に弱い種は、現在では見ることが難しくなりました。人の生活様式が変わったことで動物たちにも影響があることを知ることができます。



口太鴉

中口鴉

※ハシブガラス

※ハシボガラス

ハシブガラスについては「専ら人里で人の残飯を食べている。肉は麝香(じゃこう)臭があつて人は食べることができない。胸、腹、肉の厚いところの臭いが最も甚しい。」と記しています。ハシボガラスについては山林に多くいて、麝香臭がなく食用になるとしています。

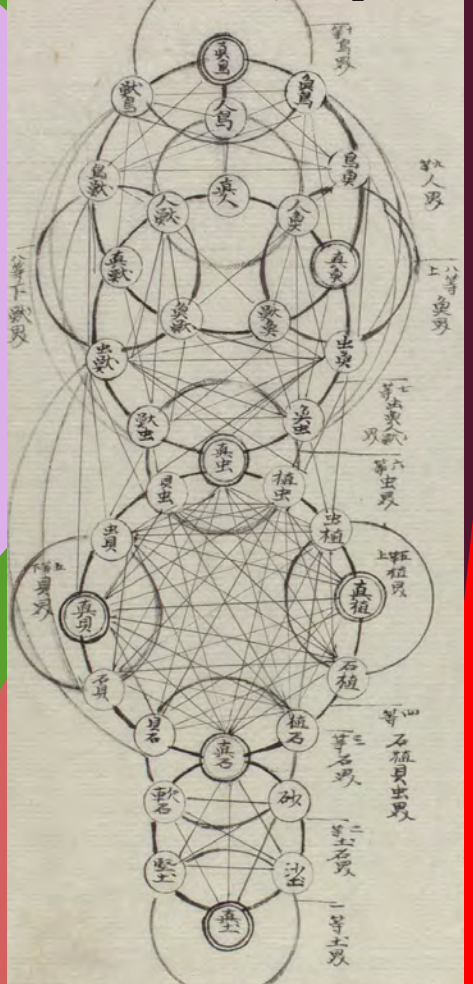
胤保は鳥について「鳥の三材」という説明をしており、くちばしを見ればその食性を知り、羽を見ればその飛び方がどのようであるかを知り、足を見れば居所と生活様式を知ることができるという説明をしており、これは現代でも通用する内容です。



「ニホンアシカとニホンオオカミ」

ニホンアシカは1975年以降確認の記録がありませんが、当時も稀だったようです。ニホンオオカミは明治時代に絶滅してしまいましたが、大雪になった冬は人里に降りて来て飼犬や猫を食べたと記録しています。

「万物一系理」



「三つの物事の間には必ず中間の存在があり、つまり万物は連続した存在である」という松森胤保独自の進化論です。当時の日本にまだダーウインの進化論が広まっていなかったにもかかわらず、こうした発想ができたのは、採集、飼育、栽培について豊富な経験と、鋭い観察眼があつてこそ可能だったのではないのでしょうか。

庄内の動物情報コーナー

各地で伝えられた豪雪。山形県でも肘折では積雪4mを超えるなど、過去最高を記録しています。しかし、3月になると一気に気温も上がり、今度は各地で桜の開花が早いという情報が聞こえてきました。山形県内でも観測史上2番目の速さとのことで、目まぐるしく変わる季節に体調がついていかない人も多いのではないのでしょうか？皆さんの地域の環境変化等にお気づきになりましたらmoukin@raptor-c.comまで投稿ください。



2018/1月「ホシムクドリ」酒田市
新年に酒田市内でいくつかの群れで確認された普段見られない小鳥。アメリカのロックスターのようないでたちです。「ホシ」だけに。
撮影：佐々木真一様



2018/1/20「ハイトカ」鶴岡市
最近目撃情報として多く寄せられるハイトカ。このハイトカは自宅の庭の木で小鳥を襲って食べていたそうです。
撮影：真島様



2018/1/26「ヒレンジャク」酒田市
色のきれいな珍しい鳥がいるとのことであわてて撮影。シュッと伸びる頭の羽がかっこいい！本人はナナカマドにくぎ付け！
撮影：庄司和樹様



2018/2/23「ツメナガホオジロ」酒田市
オオジュリンに似ていますが、この時期は庄内では見られないはず。では何者か？後ろの爪が長いツメナガホオジロだそうですよ！
撮影：阿部治雄様



2018/3/10「ハヤブサ」酒田市
悠然と飛んでいるように見えたのですが、止まってたんですね…。キーーーーーーン！
撮影：下本緑様



2018/3/24「カタクリ」酒田市
春にしか花、葉、茎を見ることができない「スプリングエフェメラル」と呼ばれる植物の代表。今年は開花も早かったそうなので、いつもの時期に行っても花は見れなくなっていたかも。撮影：池田久浩様



2018/3/24「オオカラヒワ」鶴岡市
風切羽の白い部分の大きさとで判別できるようですが、至難の業ですね。
撮影：なおちゃん



番外編 2018/2/18「ハジロカイツブリ」宮城県東松島市
大都会宮城県より投稿がありました。ハジロカイツブリは都会でどんな暮らしをしているのかな？意外と快適？
撮影：細川真優様



番外編 2018/3/16「カンムリカイツブリ」秋田県にかほ市
おおっ！白い！かなりめずらしい部分白化個体。漆黒の冬の日本海でも目立っていたようです。
撮影：後藤勇様

突撃！鳥海イヌワシみらい館⑧



公益の森づくり支援センター白壁洋子さんに聞く！

しらかべ ようこ

山形県内のその道のプロに教を乞う「突撃！鳥海イヌワシみらい館」のコーナー8回目。今回は公益の森づくり支援センターの森づくりアドバイザー「カベさん」こと、白壁洋子さんにお話を伺ってきました。

～森は非日常ではなく日常の森に～

本間) 自然とかかわるきっかけはなんですか？

白壁) 活動を始める前のことです。よく登山をしていた時、「山が荒れている」と聞きました。登山で行く山は荒れてはいませんでした。後に、この荒れている山は「里山」のことで、木を使わなくなってから里山が荒れているということなんだと知り、森の整備や森を使って私たちにも何かできるかもしれないということで、森林ボランティア「森の仲間たち」を立ち上げました。会の活動は主に森林整備と森や自然を伝える活動です。森林は借用地ですが、ヒメギフチョウが来ているところがあり、ヒメギフチョウの森づくりとして整備しているところがあります。地権者からは最初はなんで「チョウチョ」を守らなければならないの？という感じでしたが、幸いにも話をするとわかってくれました。整備の仕方もきれいに下刈りで環境整備をするだけでなく、さまざまな生き物の住む森を考えた森づくりを行っています。自然を伝える活動では、自然観察会やつるのクラフトなどもしてきました。観察会の年齢層は子供から大人まで様々ですね。

ベースになっている自然のことを伝えていかなければと感じています。

本) 県内では企業によるやまがた絆の森プロジェクト(企業等CSRによる森づくり)が各地で行われていますが、企業の皆さんにお伝えしたいことはありますか？

白) 森の働きや私たちの暮らしとかかわり、自然のことを森の整備とともに知って欲しいです。なぜ絆の森の活動をしているのか、この森をどんな森にしていくのかなど「テーマ」を持って環境に配慮した森づくりを行ってほしい。



ホンダカーズ山形による森林育成プログラムにて「鎌講習」

本) 自然とかかわる人への安全研修・救助講習なども行っていますが、林業関係者の事故も多いのでしょうか？

白) 林業では時に死亡事故なども起きていてとても残念なことだと思います。一人での作業も多いのかもしれませんが。また年配の方とか「俺は大丈夫だ！」との声も良く聞きます。慣れは怖いと思います。森づくり団体のボランティア活動では今のところ大きな事故は聞こえてきません。緑環境税も10年を過ぎましたが、おかげさまで大きな事故もなく活動が続いていると思います。しかし安全研修に対する理解は低いと感じます。一度研修したから大丈夫ということではなく、油断しないで毎年研修会に参加して安全対策を確認しながら活動してほしいと思います。

本) NHK山形放送局夕方のニュース内のコーナー「四季のやまがた」にもご出演されていました。どういう思いで番組に携わっていましたか？

白) これも10年近くさせて頂いて、とても反響が良かったようです。残念ながら番組のコーナーはすでに終了しましたが、放送中は街中で声をかけてくださる方もいて、「今度はどこに行きますか？」とか「〇〇に行ってほしい！」な



酒田市西荒瀬保育園とのみどりの保育園事業

本) 様々な林業従事者や環境系NPO法人のサポートもされていますが、業務に携わる中で見えてきた県の林業業界の現状と課題などありますか？

白) 山形県では緑環境税(県民一人当たり年/1,000円を収め、森林の整備等に利用される)が始まって11年経ちました。ハード面は少しづつ進んできたと思いますが、材の活用(杉も広葉樹も)と生業という経済面ではまだまだかと思っています。県の森林(モリ)ノミクスと、国の森林環境税による森林の更新と材の利活用に期待したいと思います。ソフト面ではまだまだ森林の大切さ、自分たちの暮らしとかかわりについて生活の

ど話をしてくださる方もいました。置賜地方の自然の移り変わりや森の大切さ、暮らしとのかかわりをお話したいと思っていました。一般の方に向けてなので専門用語は使わない、できるだけ方言を使う、植物の説明だけでなく自然の仕組みや生態もお話して、自然はすごい、植物もすごいということを見ていただきたいと思っていました。

本) 山形県内の環境で良いと感じる点と、もっとここは良くできるのではないかと感じる点があれば教えてください。

白) 自立した自然としての鳥海山や月山や飯豊山などの多くの山々は、オーバーユースや開発さえなければ環境は維持できます。しかし、人間の生活という活動の伴った里地里山は以前のように使えていないため、里山という自然が「藪山」になっています。「使うことで成り立つ自然＝里山」に戻していくことが重要です。現在の里山は広く大きく、人手がなく、山から貰うものが少ない＝お金にならない。良くしていかなければならない環境は周囲にいっぱいあります。どうやったらうまくやれるのだろうと、大学の研究でも国も県も私たちも仕組み作りを考えていますが難しい問題です。山形県でもバイオマス発電が動いて来ますが、まだ一部の木材利用にすぎません。みんなで森を考える必要があると思います。



カベさんのトレードマークである手ぬぐいは季節や気分に合わせて様々な柄を持っているとの事

本) 保育園や小学校と連携した環境教育で大切にしていること、子供たちと触れ合うことで見えてきた成果や課題などありましたら教えてください。

白) まず教育という観点も必要かもしれませんが、できるだけ自分で気づいて学習してその中に「教育」が少し入る形になるように心掛けています。山形県の環境教育では、ごみ問題やエネルギーの問題が主で、森林に関する部分はあまり多くありませんでしたが、今年から環境教育の中に木育を取り入れました。自然を伝える人や森林環境教育に携わる人材が不足していることに加え、インストラクターと利用者をマッチングさせる仕組みも課題ですね。子供たちは一度森に行くとまた行きたいと必ず言うてくれます。自然へ行きたくてウズウズしているかのように思います。校舎の中での学習も大切ですが、もっと自然の中で自由に遊び自然を感じることも大切です。ゆったりと時間をとって保育や学校教育の中に「センス・オブ・ワンダー(レイチェル・カーソン著)」の世界を取り入れてみてはと思います。何年か前に総合学習で小学生を遊水地に連れて行きました。「自然って面白い」「ヘビが大嫌いだっけど抜け殻に触れるようになった」といった感想や「自分たちだけでもまた遊水地に行った」など子供たちの変化を感じることができました。しかし一方で、親御さんや祖父母の方で「山に行けば虫やヘビがいる!」ということで自然と触れ合うことを敬遠している家庭もあるようです。大人も子供と一緒に自然と触れ合って自然を体感してもらい、自然を知る必要があるのではないかと思います。はじめの一步ではな

いのですが、はじめの一步のお誘いが自然へ行ける第一歩かもしれません。一步目になるその機会を考えています。

本) 自然と触れ合ってきた中で、環境が変わってきたと思うことはありますか?

白) 今まで何も手入れをしなかった山の手入れを始めたなら、何年か経過して植物相が変わって、種類も数も増えてきた場所。あまりにもきれいに刈りすぎて外来種が結構出てきたところ。湿地の水の流れや富栄養化。そして人間のかかわりがなくなってきて失われた里山の自然。良くも悪くも変わってきたと感じる点があります。環境を守るうえで、ひとつの絶滅危惧種を守りたいという思いもわかるのですが、そこはどんな環境かを考えることが大切かなと思うのです。山形県内では緑環境税のおかげもあって、環境保全に参加する団体が増えてきたことや、県民の理解という点で良い方に進んできている気はします。少しですが将来への明るい兆しを感じますね。

本) これから推進していきたいことは何でしょうか?

白) 県全体では若い林業従事者が増えて、かつ生業としてやっていけること。そしてそれらの方にも自然のことを理解していただく必要があると思います。私たちはもっと自然や森の「チカラ」を知って、私たちの人間の暮らしや、生き物たちの生きているベースとなっているこの地球＝自然を学ぶ・感じる大切かなと思うのです。みんながそれを理解すれば、環境問題はなくなるはず。だから山へ行こう。森は非日常ではなく日常の森に。

本) 環境にかかわりたいと考えている方にぜひアドバイスをお願いします。

白) 私は自然に対する夢と強い思いでがむしゃらに走ってきました。子供たちで現在環境系の仕事に夢を持っている人もあきらめないで頑張してほしいです。またどんな形であっても自然に関わっていてほしいと思います。



いつも子供たちと明るく元気に笑顔で触れ合うカベさん。自然と触れ合う女性はこちらあってほしいという私たちの理想です。私たちは勝手に白壁さんを環境のバロメーターだと思っていて、白壁さんから笑顔が消えた時は環境が悪化している証拠であると考えています。白壁さんのように活躍する女性を目標にもっと多くの女の子たちから夢をもってこの環境業界に飛び込んでほしいですね。そのための環境づくりもしていかなければならないと感じました。



白壁洋子(しらかべ ようこ)
秋田県湯沢市生まれ。森林ボランティア「森の仲間たち」代表。NHK山形放送局の夕方のニュース内コーナー「四季のやまがた」に案内人として出演。2007年よりやまがた公益の森づくり支援センター森づくりアドバイザー。

酒田市環境衛生課 環境保全係より

猛禽類保護センター活用協議会の事務局である、酒田市環境衛生課からニュースです。鳥海イヌワシみらい館スタッフも参加協力しています。

環境フォーラムさかた始動！

酒田市環境衛生課が事務局となって、「環境フォーラムさかた」が始動しました。

フォーラムとは公共集会場という意味から、ふらっと緩く気軽に参加できるものとして設置し、専門的な知識を持たずとも環境について意見を述べたり、情報を得る場としても活用していただけます。環境問題を難しいものにしらないのが環境フォーラムさかたの理念です。

現在の構成メンバーには市民を代表して、地域のマスコミ関係者、環境に深く携わっている企業、NPO法人、地域の地球温暖化対策推進委員の方たちから参加していただいています。

環境フォーラムさかたでは参加してくれる人・法人を募集中！入会すると以下の特典があります。

- ①入会金、会費はありません。
- ②酒田市の援助が受けられます。
- ③環境情報のメールが届きます。

会長や役員もなく、全員が平等な立場で交流します。また、活動への参加も強制ではありません！興味があること、時間があるときだけでOKです。入会は下記QRコードから、メールを送信してください(本文不要)。



酒田市環境衛生課
マスコットキャラクター
「りさりる」

酒田市が「生物多様性地域戦略」の策定に着手！



環境省が行っている「平成29年度生物多様性地域戦略策定に向けた専門家派遣等支援事業」に酒田市が応募し支援自治体に選ばれました。2月と3月にわたって酒田市役所の関連する課と地域関係者、環境フォーラムさかたのメンバーが集まって酒田市の魅力や後世に伝えるべきものについて専門家を交えてディスカッションをしました。

生物多様性地域戦略は、環境省が策定について推奨していますが、義務ではありません。全国的に見ると都道府県、政令指定都市では約9割が策定していますが、それ以外の市区町村単位ではわずか4%が策定しているにすぎません。

環境に配慮する酒田市としては、持続可能な経済発展と環境保全を推進すべく、オリジナリティの高い生物多様性地域戦略としてまとめ、平成32年度の酒田市第3次環境基本計画に反映させたいとのことです。周辺市町村への波及効果も期待したいです。これからも鳥海イヌワシみらい館は、国連全体の目標を達成するための酒田市の取り組みに協力をしていきます。

環境省 鳥海南麓自然保護官着任のご挨拶

澤野 崇 自然保護官

皆様はじめまして。長野県から来ました澤野と申します。この4月より鳥海イヌワシみらい館にある鳥海南麓自然保護官事務所に勤務することとなりました。趣味は風景写真撮影です。特に水のある風景が好きなので、よく子供たちを連れて、気軽に行ける滝や溪流巡りをしています。この鳥海山周辺にはたくさんの滝や溪流があると聞いているので休日にはいっぱい写真を撮って巡りたいと考えています。先日、平田にある「十二滝」に家族で散策に行ってきました。滝も素晴らしかったですが、水遊びできそうな環境がとてもよかったです。夏にまた訪れて子供たちに水遊びをさせたいと思いました。

鳥海イヌワシみらい館は、イヌワシをはじめとする希少な猛禽類の保護推進・普及啓発を行う拠点となっていますが、このような業務に携われることを大変嬉しく思っています。私は鳥類の専門知識を持っているというわけではありませんが、この業務をきっかけに鳥類についてもじっくり学んでいきたいと思っています。また、少しでも多くの人たちにイヌワシをはじめとする鳥のことを知ってもらい、鳥だけでなく、自然環境全般について興味・関心を持ってもらえるように働きかけていきたいと考えています。これから鳥海山周辺のことをいろいろと学びながら仕事に励んでいきたいと思っておりますので何卒よろしくお願いいたします。



イベント開催報告

○出前講座「鳥っこになろう！」

1月18日(木)に酒田市内にある西荒瀬保育園にて「鳥っこになろう！」と題して出前講座を開催しました。

西荒瀬保育園では幼児期から環境教育を導入しており、園周辺にある松林を利用したり、遠足などでも自然の多い場所に行き、子供たちが自然との触れ合いを大切にしているそうです。今回は冬季間でもあることから、室内でのお話となりましたが、長船専門員による楽しいクイズや、エサ取り体験をして、鳥の特徴について勉強してくれました。西荒瀬保育園の先生方、参加してくれた年長組の皆さんありがとうございました！とても楽しい時間を過ごせたと思います！



○観察会「冬のワシ・タカ探し」

2月3日(土)は「冬のワシ・タカ探し」と題して観察会を開催しました。講師は鳥獣保護区管理員の宮川道雄さんです。

今年の冬は豪雪が続き悪天候が予想されましたが、当日は運よく快晴となり、穏やかに開催することができました。連日の低気温で下池の湖面は隙間なく結氷しており、水鳥たちも少なかったのですが、開始直後から多くの猛禽類たちが出現してくれました。講師の宮川さんからはラムサール条約になるまでの経緯等もお聞きし、現在抱える問題についてもお話いただきました。

講師の宮川さん、参加してくださった皆さんありがとうございました。当日見られた鳥:オオワシ、オジロワシ、オオタカ、トビ、ノスリ、ツグミ、ウミウ、カワウ、コハクチョウ、ムクドリ、ダイサギ、アオサギ、マガモ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、マガン、ヒヨドリ、イノヒヨドリ 計18種

イベント情報コーナー

月山ビジターセンター共催「春を感じるさえずり観察会」

期 日 平成30年4月29日(日)
時 間 8:00~12:00
集合場所 鶴岡市大山公園駐車場
参加費 大人一人100円(保険代) 小人無料
講 師 太田威氏(ネイチャーカメラマン)
持 ち 物 双眼鏡(貸出可)、飲み物、行動食
※トレッキングコースを歩きますので、歩きやすい靴服装でご参加ください。

春を感じる《さえずり》観察会
鳥海イヌワシみらい館・月山ビジターセンター

春高に、鳥たちの営みや、植物たちの芽吹きがかなしみ、美しい鳥のさえずりを聞きながら、ゆっくり、ゆっくり、ゆっくり、まったり、まったり、鳥山の春を感じてみましょう。

期 日 4月29日(日)
集合場所 鶴岡市大山公園駐車場
集合時間 午前8時00分(受付終了時刻12時)
講 師 鳥のさえずり、鳴き声の観察、鳥の生態や習性、鳥のさえずり、春を五感で感じよう。
備 考 鳥のさえずり、鳴き声の観察、鳥の生態や習性、鳥のさえずり、春を五感で感じよう。
料 金 月山ビジターセンター(月山)のボランティアスタッフによる案内(無料)と、鳥のさえずり、鳴き声の観察(有料)の費用がかかります。
参加費 大人100円(保険料)小学生以下半額(保護者同伴の場合)
申込期間 4月25日(水)まで、月山ビジターセンターの鳥海イヌワシみらい館、いずれかの館へ電話またはメールでお申し込みください。
お申し込みの際は、氏名・住所・連絡先をお知らせください(保険加入時に必要となります)。お申し込みが完了するまでにお申し込みください。当日の参加の有無については、午前8時~12時30分の間に、月山ビジターセンターにメールでお知らせください。

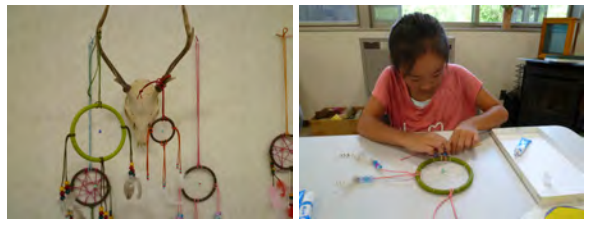
お申し込み・お問い合わせ先
月山ビジターセンター
〒957-0211
山形県鶴岡市鶴岡町字中野147-5
Tel/Fax: 0234-62-4321
Mail: visitor@bz04.plala.or.jp

鳥海イヌワシみらい館
〒957-0207
山形県鶴岡市長手塚町7-1
Tel: 0234-64-4681
Fax: 0234-64-4683
Mail: moukin@raptor-c.com
http://www.raptor-c.com/

申込み 4月25日(水)までに下記のいずれかの施設まで
1. 月山ビジターセンター TEL 0235-62-4321 E-mail: visitor@bz04.plala.or.jp
2. 鳥海イヌワシみらい館 TEL 0234-64-4681 E-mail: moukin@raptor-c.com
※雨天は中止となります。当日6:00~6:30までに月山ビジターセンターまでお問い合わせください。

クラフト体験イベント「ドリームキャッチャー作り」

期 日 平成30年5月3日(木)~6日(日)
時 間 9:00~16:00
場 所 鳥海イヌワシみらい館 特設会場
材料費 大・・・250円 小・・・200円
申込み 不要 当日会場へ直接お越しください。
TEL 0234-64-4681 E-mail: moukin@raptor-c.com





蜂蜜の森から 第4回 「愛しハチクマ」

山形県朝日町で蜜ろうそくの制作を通して自然のすばらしさを伝えている安藤竜二さんによるコラムのコーナー第4回目です。蜂蜜の森を通して私たちが暮らす環境を見つめなおしてみませんか？

ハチクマが大好きです。今年もまもなく彼らは何千キロの旅を終えて、ここ朝日連峰の森に帰ってくると思うとドキドキします。初夏になると私は毎朝実家の採蜜の手伝いに追われます。夜明け前に奥山の養蜂場へ一番乗りする時は、いつも50m手前から車のスピードを落として静かに近づきます。するとまもなく私に気づいたハチクマがバタバタと美しい姿を見せて飛び去ります。



「渡るハチクマ」撮影：長船裕紀

養蜂家がこの季節に高い確率でハチクマに出会えるのには理由があります。養蜂の仕事にはオス蜂の幼虫を取り除く作業があるからです。どういうことかと言うと、オス蜂の巣はたいてい巣枠の下部外側にはみ出して作られるので、切り取られる運命なのです。それにオス蜂は交尾以外は何も仕事をしないので、たくさんいるとハチミツの無駄な消費にもなります。取り除いた幼虫の入った巣は巣箱の前に捨てておきます。ハチクマは硬い巣箱を壊すことはできませんが、こうして容易に蜂の子をたらふく食べられるのです。

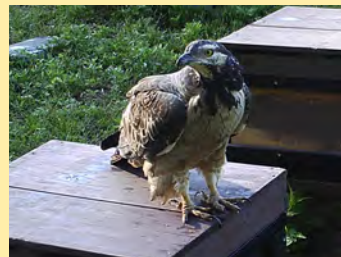
ハチクマが大好きになった理由はいくつもあります。出会いは瞳に一目惚れしたことでした。一度だけ気づかれずに至近距離で見たことがありましたが、姿は勇ましいのに瞳が優しいのです。

それから大好物が私と同じ蜂の子です。オス蜂のサナギは私たち養蜂家も醤油とハチミツで油炒めして食べるのですが、これが香ばしくて本当においしいのです。

それからハチクマは、ミツバチの天敵のスズメバチの巣を襲ってくれます。特にキイロスズメバチやオオスズメバチによる秋の被害は甚大で、養蜂家は毎日蜂場をパトロールしなければなりません。養蜂家の中にはハチクマを嫌う

人もいますが、実は知らないところで助けられているのです。

またハチクマは東南アジアの越冬地から繁殖地の日本にはるばる帰ってきます。養蜂家が冬越しの南房総から春になると帰ってくるのと似ています。さて、ここ数年目撃するのは、ひとまわり小さな胸の白い鷹ばかりで、見慣れたハチクマはなかなか現れず残念に思っていました。ちょうど鳥海イヌワシみらい館の本間憲一氏と知り合った頃だったので、その小さな鷹の写真を送ってみました。なんとそれはハチクマのオスだったのです。そして自動撮影できるビデオカメラを設置することになりました。



黒目がちな見た目から優しい印象の♂(左)黄色い瞳からタカらしい♀(右)

私は毎日、冷蔵庫で保管していたオス蜂の巣をまんべんなく巣箱の前に置き続けました。一ヶ月後に確認したカメラには、見事に捕食の様子が写し出されていました。しかも二羽です。とても不思議なのは、巣箱の真ん前に置かれた巣盤を頻繁についばんでいるのに、ハチたちが怒っていないのです。一緒に写っていたテンが、ハチに追われて逃げる様子と対照的でした。本当になにか癒し系のフェロモンを出しているように感じました。その動画を見て私が益々ハチクマに惹かれてしまったことは言うまでもありません。いよいよハチクマがやってくる忙しい季節が始まります。(文・安藤竜二) ※ハチ蜜の森キャンドルとのハチクマの調査レポートは鳥海イヌワシみらい館通信Vol.15に掲載しています。



安藤竜二

1964年生まれ。養蜂を学んだ後1988年に、日本ではじめての蜜ろうそく製造に着手。ハチ蜜の森キャンドル代表。日本エコミュージアム研究会理事。山形県養蜂協会監事。編著『朝日岳山麓養蜂の営み』(朝日町エコミュージアム研究会発行)



Illustrated by Masami Tsuno

©鳥海イヌワシみらい館

普及啓発担当

今年度はJAXAのやぶさ2が「リュウグウ」に到着します。(本)

事務局

今年は雪解けが早く、林の中から聞こえてくる鳥の声に春を感じています。(村)

希少種保護増殖等専門員

調査後は食料調達！連日山菜三昧！タラの芽の木の芽和えサイコー♪(長)

鳥海南麓自然保護官

周辺にたくさんの滝があるようなので、早速5つの滝を見に行ってきました。(澤)

編集後記&施設情報

鳥海イヌワシみらい館 4月～6月の開館情報

開館時間・・・9:00～16:30

入館料・・・無料

休館日・・・6月5日(火)館内メンテナンスのため休館

臨時休館日はホームページにてお知らせします。

ホームページアドレス : <http://www.raptor-c.com/>

<https://www.facebook.com/Raptoreagleraptor>

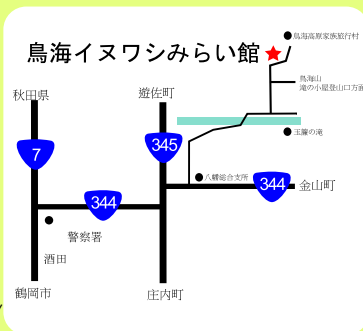
猛禽類保護センター

〒999-8207

山形県酒田市草津湯台71-1

TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683

E-mail: moukin@raptor-c.com



鳥海イヌワシみらい館通信

Vol.26 春号

発行: 猛禽類保護センター活用協議会
(事務局 鳥海イヌワシみらい館内)